

U.S. ARMY INFANTRY

1/35 MILITARY MINIATURE SERIES NO.13 アメリカ歩兵セット



TAMIYA



(ノルマンジー上陸作戦)あの要害を撃破せよ

1944年6月6日未明、ドイツ軍壊滅を目ざし、ヨーロッパ大陸への一大反攻作戦(第2次大戦中最大の作戦と言われた)ノルマンジー上陸作戦の幕が切って落とされました。イギリス本土へ集結した連合軍将兵200万もの大軍がユタ、オマハ、ゴールド、ジュノー、ソードの五つの海岸に上陸を取行したのです。このうちアメリカ軍はユタ、オマハ海岸を受けもち、20個師団が参加しました。このときのアメリカ兵の装備は下図に示すようなもので、オリーブドラブ色のコンバットジャケットを身につけていました。

★上陸時のアメリカ兵の写真には、ヘルメットに偽装網をつけたものが多く見られます。これは木の枝、草などをつけてカモフラージュするために使われ、こぶし大の大きさに折りたたまれます。

★部品番号⑨のてん幕付き背のうは上陸、戦闘時にはほとんどつけられていません。これは重装備によって著しく行動が妨げられるのをさけるため、アメリカ軍の場合、あらゆる面で機動力をもって戦闘に参加するため個人がすべての装備品を身につけることはあまりないようです。

★救急品袋は前後どちらでもよいですが、歩兵の場合はふつう後に、戦車兵では席に座るのに邪魔にならないよう前につけられます。

★手榴弾(グレネード)は、ポケット、ベルトな

どグリップのかかる所なら、どこにでも取り付けられるようになっていきます。

★カービン銃、コルト拳銃などは、一般の歩兵は装備品として持っておらず、主に小尉以上の階級のものの、機関銃手、ロケットランチャー射手、迫撃砲手、火炎放射器射手などが護身用の装備品として義務づけられていました。

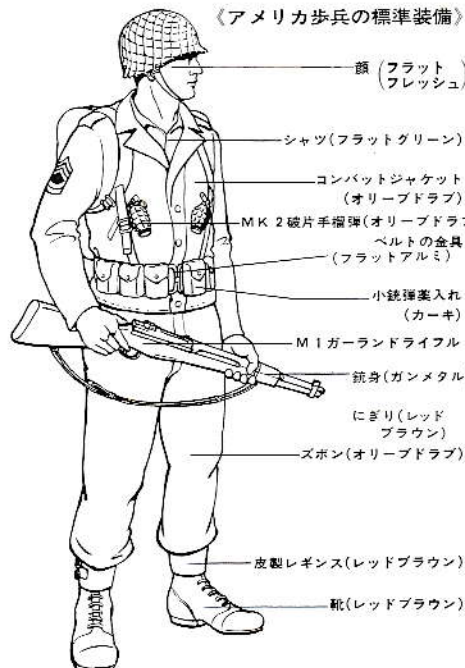
★1個小隊は3個の小銃分隊と1個の機関銃分隊より成っており、小銃分隊は9名で編成され、そのうちわけは次の通りです。

- | | | |
|----------|---------------|------|
| 1. 分隊長 | M1 ガーランドライフル | 口径30 |
| 2. 小銃手 | M1 ガーランドライフル | 口径30 |
| 3. 小銃手 | M1 ガーランドライフル | 口径30 |
| 4. 小銃手 | M1 ガーランドライフル | 口径30 |
| 5. 小銃手 | M1 ガーランドライフル | 口径30 |
| 6. 小銃手 | M1 ガーランドライフル | 口径30 |
| 7. 自動小銃手 | ブローニングM1918A2 | 口径30 |
| 8. 弾薬手 | M1 ガーランドライフル | 口径30 |
| 9. 副分隊長 | M1 ガーランドライフル | 口径30 |

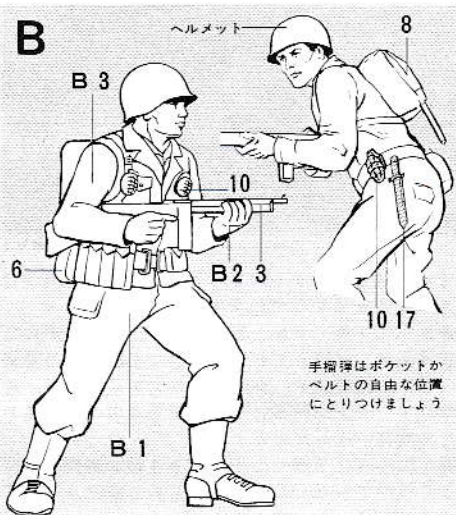
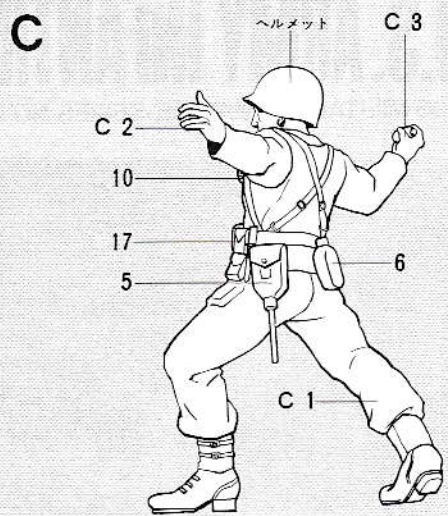
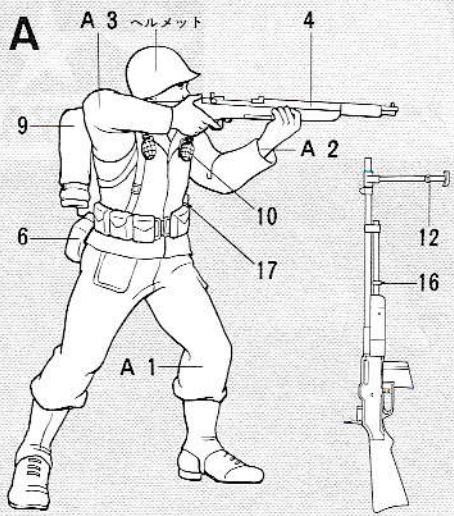
★部隊マークは、ふつう戦闘服にはつけられませんが、大戦初期、正規の服装で戦闘に参加したものにはつけられました。また空挺部隊員(パラシュート兵)は部隊マークをつけていました。

★布製レギンスは1944年中頃まで多くつかわれ、以後、皮製レギンスが多くなってきました。

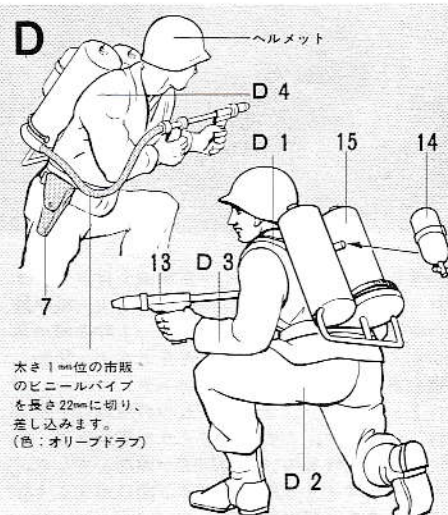
《アメリカ歩兵の標準装備》



()内は塗装色の指示です。



手榴弾はポケットか
ベルトの自由な位置
にとりつけましょう



木さ1mm位の市販の
ビニールパイプを長さ22mmに切り、
差し込みます。
(色: オリーブドラフ)

●部品番号3(M1サブマシンガン)以外に
16(ブローニングM1918A2)自動小銃
1(M3サブマシンガン)を持つことができます。

●部品番号4(M1ガーランドライフル)以外に
2(M28型対戦車てき弾付ガーランドライフル)
11(M1カービンライフル)を持つことができます。



大戦中はM2-2型又はM3-4-3型の
火炎放射器が多く使用された。

1/35 ミリタリミニチュアシリーズ
No.2 ドイツ歩兵セット……4体
No.13 アメリカ歩兵セット……4体
No.22 ロシア歩兵セット……4体

No.30 ドイツ歩兵(突撃)セット……8体
No.32 イギリス第8軍歩兵セット……8体
No.37 ドイツ・アフリカコーア……8体
No.38 ドイツ機関銃チーム……7体

No.48 アメリカ歩兵(G.I.)セット……8体
No.86 アメリカ歩兵機関銃チームセット……8体
No.90 日本陸軍歩兵セット……4体
No.109 ドイツ親衛隊歩兵セット……4体

No.15 アメリカ・ウィリスジープ
●人形4体つき

